平成２７年度　日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立田尻小学校　教諭　村山　佐知子

１　派遣期日　　平成２７年１０月７日（水）
２　研 修 先　　学校名（会場名）郡山市立大島小学校
　　所在地〒963-8026　福島県郡山市並木 4-10
　　http://www2.schoolweb.ne.jp/
３　研修内容

第６０回東北造形教育研究大会福島大会　平成２７年度福島県造形教育研究大会郡山大会
大会主題「わくわく！できた！から始まる連続する表現のよろこびの創造」
～造形美術表現を通した自己肯定感の醸成～
（１）小学校部会「子どもたちが，よろこびを感じながら思いをふくらませ，表現し続けるために，何を大切にしますか？」
公開授業Ⅰ「ひみつの○○○○」（第２学年）教諭　木幡　博之
Ⅱ「わくわく島へ　ようこそ！」（第３学年）教諭　小野　浩司
Ⅲ「こうぞをかためて」（第６学年）教諭　鬼澤　祐一
（２）記念講演会「小学校，中学校を通して図画工作，美術で育てたい力」
文部科学省教科調査官　岡田　京子
文部科学省教科調査官　東良　雅人

【公開授業Ⅱ】

「わくわく島へ　ようこそ！」（第２学年）では，空き容器やパック類など身近な材料をもとに，建物やそこに住む人や乗り物，生き物をつくっていく題材であった。材料を組み合わせながら自分の思い描く空間を創造する魅力あふれる題材である。材料は，子どもたちが自分のイメージと製作を容易に結びつけられるよう，すでに立体になっている紙製の空き箱を使用していた。空き箱にドアや煙突などを付けると建物に見立てることができた。子どもたちは表現への抵抗感をあまり感じることなく，題材に対する自分なりのイメージをふくらませていた。さらに，友達同士で建物を並べていけば，活発なコミュニケーションが生まれるであろうという授業者のねらい通り，お店屋さんごっこなどの遊びを通じて交流が深まっていた。中には，島での移動手段として飛行場や線路を製作している児童もいた。本当にこの島での生活には，何が必要か，考えた結果が製作に結びついており，大変意欲的な活動があった。

材料と材料の接合に関しては，目的や必要な強度によって方法が変わることを気づかせるように，発問を工夫していた。既習の用具の基本的な使い方も掲示しておくことで，確認がいつでもできるような環境であった。分科会での指導講話では，そのような用具の行きつ戻りつの学習は必然性のある繰り返しであり，何回も用具を使う場が大切であるとのご指導をうけた。

教室の中で空箱を使って製作する授業風景

【小学校・実践発表】（絵画・造形遊び）

「こんなふうにも描けるんだ！」
～異学年集団での造形活動を通して，新たな自分に気付く子どもを目指して～

山形県米沢市立広幡小学校　今田いく子教諭

実際に目の前のものを「見ながら描く」ということや新しい画材を使って描くことを通して，子どもたちの中にある既成概念と「本物」とのギャップが子どもたちの意欲をより喚起すること，「こんなふうにも描けるんだ」という発想・技術面での新たな気付きと広がりを生むことにつながる実践の発表であった。鏡をのぞきこみながら自分が歯磨きをしている姿を描く活動で

あるが，毎日の歯磨きタイムを有効に活用していた。また，地域の歯科医師による指導も活動に組み込むことで口腔内での興味・関心が高まるよう場の設定を工夫していた。

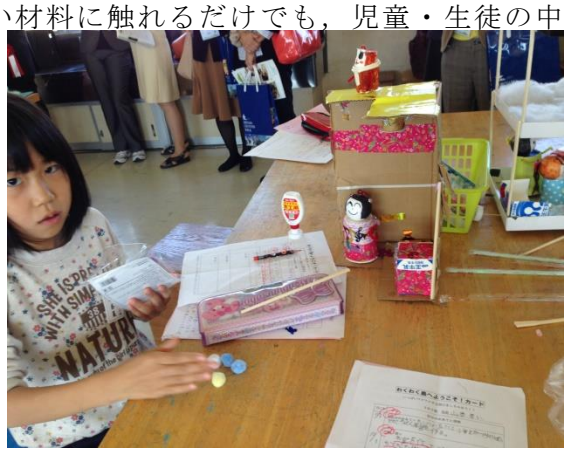
研究協議では,「本物」にふれさせるには，その地域に合った方法がいくつも考えられるので実態を考慮していく必要性が論じられた。また，今回の実践発表では，米沢市立上郷小学校浅川分校での実践も併せて紹介され，牧場に何回も校外学習に出かけ，じっくりと本物の牛を描いた児童の作品は，どの作品も生命力と力づよさにあふれていた。

【記念講演会】

「小学校，中学校を通して図画工作，美術で育てたい力」について，主に小学校については岡田調査官，中学校については東良調査官が講話を行った。国際的に活躍できる，コミュニケーションが多方面でとれる豊かな人材の育成という視点は，一貫して示されており，発達の段階に応じた題材の設定や基礎・基本の力の定着が求められる。鑑賞活動においても，創造的な活動であると位置づけられる根拠が示された。新しい材料に触れるだけでも，児童・生徒の中には，自分自身と対話するような新しい価値観が生まれており，その思いをいかに形にしていくかを指導者としては，導く必要がある。

すべての子どもたちは豊かな存在だという前提で授業づくりを考えていく必要がある。

子どもたちがこれから生きる社会を考えたときに，技術革新やグローバル化により社会や職業の在り方そのものが大きく変化していくこと可能性がある。そういった厳しい時代を乗り越えて，伝統や文化に立脚し高い志や意欲を持つ自立した人間として他者と共存しながら価値の創造にいどみ，そして未来を切り開いていくのである。



強度を考えながら接着する児童の様子

学ぶことの本質をとらえていくときに，学びの質の深まり，どのような力がついたのか，子ども自身が確認できることが大切である。自分が生きることと社会との関わりを知るには，その年代にしかできない学びがある。人や物とつながっていくことは，子どもの力で学べることと教えることで学べることがある。

美術を通して人間形成の一層の深化を目指している。社会と豊かにかかわる関わり方はいろいろな方法がある。絵を見ることや形や色にこだわりながら物を選ぶことも美術的な関わりになる。表現や鑑賞は手段にすぎない。美術を愛好する心情を育てていきたい。感性を豊かに働かせた中学生の作品の紹介。水たまりの輝きを表現したい（主題）と思い，いつもの通学路に大きな水たまりができていた朝の風景を描いた。表したいことは，前日に降った雨で大きな水たまりが水かがみになっていたことである。普段見ていた風景から，美しさを感じ取り,「緑に囲まれたこの風景は私の心をいやしてくれます。」と解説をつけることができた。上手に描けたことが心に残ったわけではないところが大切である。作品からは価値や心情を感じ取れた。資質要素の中でも，感性が特に大切である。芸術を学ぶこと，自国の文化を学ぶことで自国のよさだけではなく，他国のよさにも気付くことができる。

４　感想

今回の研修では，子どもたちが，製作の過程の中でぶつかる課題に自分なりの解決策を見出し，わくわくした気持ちを抱きながら次の活動へ歩んでいこうとする実践を研修することができた。３学年の授業の導入では,「わくわく島の村長からの手紙」を提示することで題材への興味・関心が高まる工夫が感じられた。学習活動の後半では，硬質スチロールで作った「島」を教室の中央に配置し，様々な情景を想像し，子どもたちが思い思いに製作した作品が並べられるように場の設定を行っていた。授業者から題材設定への思いや配慮を，伺うことができ，今後の自身の取り組みに大変参考になった。

また，記念講演会では，文部科学省教科調査官の先生から，今後の図画工作，美術科の方向性や学習指導要領のポイントを伺った。鑑賞活動も創造活動であることが，確認できたことが有意義であった。さらに，発達の段階を考慮した題材設定と美術館との連携による鑑賞教育について詳しく知ることができた。今後は，子どもたちの「やってみたい！」という気持ちが高まり自己肯定感を大切にできる図画工作の学習に向けて，さらに研修を深めていきたい。